



▲高塚山から新池を望む

## 背景

高松市香川町の新池では、旧暦の8月3日に実った農作物でおどけた姿をつくり、新池までの道を練り歩き、最後は皆がため池に飛び込むという「ひょうげまつり」があります。「ひょうげまつり」とはひょうきんまつりという意味で、昔、地域の人々のために新池をつくった矢延平六のご恩に報いるためのお祭りです。香川県の無形文化財に指定されています。新池を見下ろす高塚山には、矢延平六を祀った新池神社があります。

## アクセス 新池神社 (高塚山)

- JR高松駅より南へ直線距離約12km
- 高松市香川町浅野
- 緯度経度 北緯34度14分54秒, 東経134度02分57秒



旧浅野村一帯(現在の高松市香川町浅野地区)は稲作りに必要な灌漑用水が少なく、干ばつに悩まされることがたびたびでした。村人たちはため池をつくる計画を立て、藩に願い出ました。その陣頭に立つて指図をしたのが矢延平六でした。平六は、村の西を流れる香東川の水を引き入れることを考え、多くの人々が力を合わせ、ついに新池という大きなため池を築きました。村人は喜び、平六は村人たちに心から慕われていました。

しかし、世の中はままならず、「新池を造ったのは高松城を水攻めにするためのもの」などといううわさが広まりました。このため、平六は八月三日、裸馬にのせられて阿波国へ追放の身となりました。

恩人を慕う村人たちは八方手を尽くし、平六を探し求めましたが姿を見付けることはできませんでした。そこで、平六のご恩に報いるため、高塚山に平六を祀り、巡りくる収穫期ごとに祭りをを行い、追慕の念を高めてきたのです。

この祭りは古くから浅野地区の人々によって継承されており、神具はすべて農作物や家庭用品などを中心に整えられています。

